



大学連携考える

コンソーシアム石川公開シンポ

北 國 新 聞
交 流 ホ ー ル

大学コンソーシアム石川の公開シンポジウム「生まれ変わる大学コンソーシアム石川とその将来像」（北國新聞社共催）は5日、金沢市の北國新聞交流ホールで開かれた。2008年度の文部科学省戦略的大学連携支援事業（戦略GP）で整備された先進的な設備や教育プログラムが紹介され、出席者は大学連携の役割と今後の可能性を考えた。

基調講演した慶大大学院政策・メディア研究科の伊藤健二特別研究准教授は、戦略GPを活用して教員、スタッフの養成や運営方法を確立し、企業や地域に成果を還元する必要性を説いた。

出席者による報告では、大学コンソーシアム石川で新たに導入されるテレビ会議システムやICT（情報通信技術）教育の支援体制のほか、地元大学、高専と地域の連携事例が紹介された。

パネル討議では、県や大学の担当者らが同コンソーシアムへの期待を語り、地元大学や企業の情報を一カ所に集めるアイデア、学生や教員OBが地域の生涯学習をサポートする案などが上がった。

シンポジウムは4月に同コンソーシアムが「石川県政記念しいのき迎賓館」へ移転するのを記念して開かれ

た。会長の中村信一
た。大学長があいさつし